

# バルカー、国内で一貫体制

## 関連部材から 愛知新工場で生産

### 半導体薬液タンク

バルカーは、半導体製造向け薬液貯蔵用ライニングタンク(特殊タンク)の一貫体制を国内に構築する。

建設中の愛知県田原市の新工場には、関連部材の製造機能を導入する。神田大輔専務執行役員高機能樹脂製品本部長は「伸長需要に対応できる強靱なサブライチエーンを作り、世界トップメーカーとしての責任を示したい」と話す。材料となるフッ素樹脂については、必要量を確保できたもよう。台湾拠点で予定人員のトレーニングも進むことから、来期早々の本稼働を実現させる。



神田専務執行役員高機能樹脂・製品本部長

接、接液部を保護ライニングしたもの。バルカーでは1972年に日本で初めての特殊タンクの生産を開始。77年にはポリテトラフルオロエチレン(PTFE)シートをパールオロアルコキシアルカン(PFA)で溶接する技術を確立した。半導体前工程ラインで使用される超高純度用据え置き型タンクでは世界トップシェアとなっている。特殊タンクの商機は半導体製造の設備投資のタ

田原工場。新工場は来期早々の本稼働を目指す

### BCP強化

半導体製造向け薬液貯蔵用特殊タンクは、フッ素樹脂ライニングシート チック(FRP)に接着し、金属や繊維強化プラスティックの合わせ目を溶

新工場には、関連部材からの一貫製造機能を導入すること。「BCP(事業継続計画)を強化する」(神田専務執行役員)。

26年に1ナプロセスの稼働というロードマップを示す。特殊タンクにもさらなる品質厳格化が予想される。また、生成AI(人工知能)に採用により開発が進む異種チップ混載や3次元実装といった半導体後工程にも特殊タンクの需要がでてきた。同社では、台湾と田原の2拠点を最適運用することで伸長需要を確実に捕捉する考えだ。

マザー工場と位置づける台湾バルカー国際(高雄市)は、21年に設置した新工場となるが、関連部材については中国拠点からも調達し安定供給を実現してきた。田原市の